



道新りんご

検索

制作元：北海道新聞永田販売所

道新りんご新聞 ラジオ版：FMアップル (76.5MHz) にて毎月第3木曜日 午前10時～放送中

発行元：北海道新聞永田販売所・北海道新聞多畑販売所・道新いかわ・北海道新聞谷販売所

平岸防災～明日に備えて～

札幌周辺に3本の活断層～最大で震度7の可能性も

4月14日に発生した熊本地震では観測史上初めて震度7の地震が2回発生し、49名の死者(4月26日現在)が出るなど大きな被害が発生しました。札幌市や周辺でも、震度7クラスの直下型地震が起きる可能性が指摘されています。

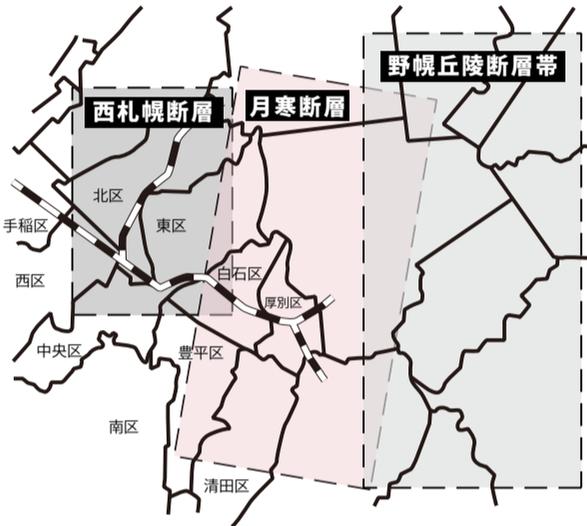
札幌市内では、「西札幌断層」、「月寒断層」、「野幌丘陵断層帯」の3本の活断層の存在が推定されています。推定と書いたのは、地表面で断層そのものを確認できない「伏在断層」だからです。今回の熊本地震、そして1995年に発生した阪神・淡路大震災では、活断層に沿って住宅の被害が大きくなりました。

月寒断層の場合、活断層の正確な位置が特定できていませんので、最悪の場合を想定し、揺れに備えておくことが必要です。

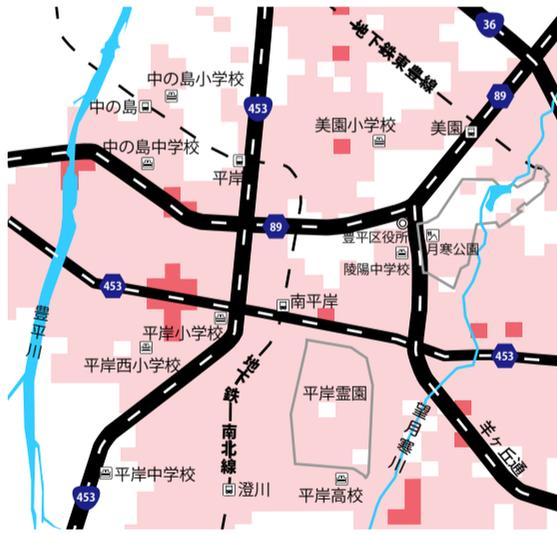
このうち最も大きな被害が予想されるのは、推定範囲が豊平区、白石区などにかかる月寒断層による地震。厳寒期に発生した場合、札幌市地域防災計画は約3万4千棟の建物が全壊し、死者は救助前の凍死を含め、最大で約8200人に上ると推計しています。

札幌市が発行している地震防災マップ豊平・清田区版を見ると、平岸のほとんどの地域は最大で震度6強、場所によっては震度7の揺れが想定されています。

地震防災マップ豊平・清田区版は、豊平区役所のほかまちづくりセンターでも入手可能。また、札幌市のホームページの「防災・防犯・消防」のページからも閲覧することができます。ご自宅の想定震度や近所の避難場所を確認しておきましょう。



札幌市とその周辺で活断層の存在が推定されるエリア「札幌市地域防災計画」より作成



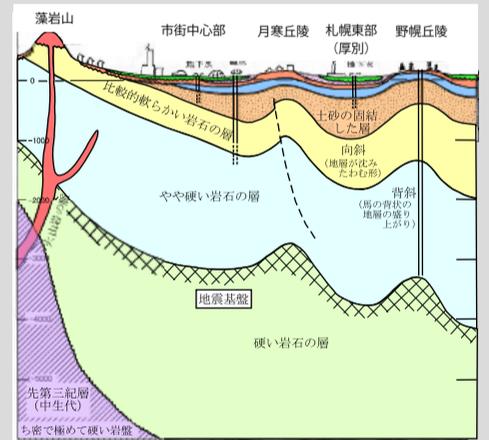
平岸地区における月寒断層活動時の最大想定震度「地震防災マップ 豊平区・清田区版」より作成

～なぜ“推定”断層？～

新聞やテレビなどでは、必ず「3本の活断層が推定される」と表現されています。活断層は、地形に現れる場合もありますが、札幌の場合、豊平川や石狩川が運搬した土砂が石狩平野に分厚く堆積しているため、正確な場所が特定できません。

ではなぜ、活断層があると推定されているのでしょうか？その根拠は、2005年に公表された札幌市による地下構造の調査結果によります。人工地震を起こす特殊な車両を用いて、地下の構造を調べた結果、地層が波打つ褶曲(しゅうきよく)構造が確認されました。

これは、堆積当時水平だった地層が、地殻変動のため波状に曲げられたことを意味しており、活断層の存在を裏付ける証拠となるのです。



札幌地下の想像図(札幌市地下構造調査より)

地域交流サロン **ぴらけし**

■住所/札幌市豊平区平岸3条5丁目
■TEL/011-815-7005
■営業日時/月～金 10時～16時

地域交流サロンぴらけしは色々なことができます!

- ①みんなが自由に入退室できます
- ②美味しいコーヒーが飲める☆
- ③地域の情報満載!
- ④レンタルスペースとしても利用できる!
- ⑤色々なイベントも開催

まち **都市づくりの担い手として。**

所有物件

- ・平岸グランドビル(本館)
- ・平岸グランドビル(新館)
- ・第2平岸グランドビル
- ・第3平岸グランドビル
- ・第5平岸グランドビル
- ・マイコンポ平岸
- ・ポミーエール平岸
- ・平岸グランドビル別館

平岸グランドビル

不動産賃貸業(貸ビル・賃貸住宅・ビル管理・駐車場) 宅地建物取引業

本社/〒062-0933
札幌市豊平区平岸3条5丁目4番22号
TEL:011-831-4040
FAX:011-821-9871
URL: http://www.hgb.co.jp
E-mail: info@hgb.co.jp

管理物件

- ・ラ・ボム平岸

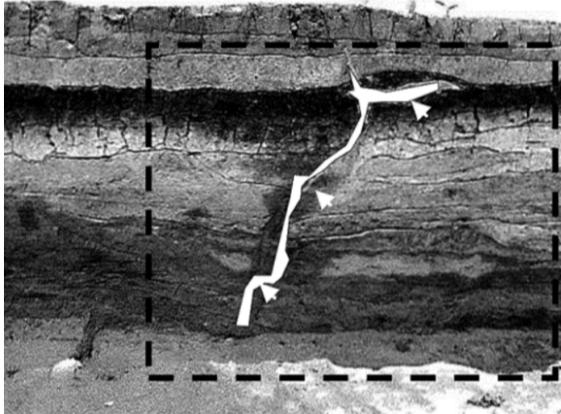
豊平の皆さんと友に地域の安全・安心・活性化を目指し
さまざまな情報を発信するコミュニティラジオ局です。

豊平区平岸のスタジオから、お役立ち情報や地域に密着した話題を盛り込んだ豊富な情報を個性あふれるパーソナリティが毎日お送りしています。

76.5MHz
FM Radio Station **APPLE**

直下型地震 100 年で約 40 回、液状化現象も

「地震の少ないマチ」とされている札幌ですが、歴史をさかのぼると過去に頻繁に直下型地震の被害にあってきたことがわかります。札幌市教育委員会などの調査によれば、過去 2000 年で少なくとも 3 回、液状化現象を伴う強い地震が発生。このうち唯一記録が残っているのが、1834 年 2 月 9 日に発生した石狩川河口付近を震源とした地震です。



札幌市内の遺跡で見つかった液状化現象の痕跡
(札幌市地域防災計画より)

当時北海道を治めていた松前藩の記録によれば、『私領分西蝦夷地のイシカリと申場所、月期日巳の刻過より地震強、二月廿二日迄日々地震にて、地割泥吹出、制札場其外破損の覚・・・』とあり、“地

割泥吹出”が液状化現象を意味すると考えられています。

また、アイヌ人の家屋 23 軒を含む 73 軒の建物が倒壊するなど、大きな被害が出ました。最近の研究によれば、このときの揺れは、震度 6 弱以上だったと考えられています。

北海道大学地震火山研究観測センターによれば、過去 100 年間で札幌市直下を震源とする直下型地震は約 40 回発生しました。2010 年には清田区を震源とする直下型地震が発生し、里塚霊園のあたりで震度 4、北広島インターチェンジ付近で震度 5 弱を観測しています。



地震で崩れた土砂を撤去する作業員ら
(2010 年 12 月 3 日北海道新聞夕刊 13 面より)

震源の深さは 3km。これは、10km であった今回の熊本地震に比べても非常に浅いことがわかります。地震の規模を示すマグニチュードは 4.6。熊本地震は、最大で 7.3 ですから、熊本地震に比べてエネルギーは千分の一以下でした。にもかかわらず、揺れが大きくなったのは、震源が浅かったためです。

このときは、“たまたま”小さな規模の地震だったために小さな揺れで済みましたが、熊本地震並みの地震が発生した場合（札幌市は最大でマグニチュード 7.3 の地震が月寒断層で発生すると想定しています）、震度 6 強～震度 7 クラスの揺れが起きるのは間違いありません。

歴史をひもとけば、札幌は決して地震が少ない場所ではなかったことがわかります。“天災は忘れたところにやってくる”という言葉にあるように、万が一のために地震への備えをもう一度確認しておきましょう。(伴野卓磨)

札幌市博物館活動センター、移転オープニングイベント開催

4 月 1 日に平岸 5 条 15 丁目（平岸高台小向かい）に移転した札幌市博物館活動センターによる移転オープニングイベントが 4 月 19 日に行われました。

お隣の平岸高台小 3 年生 31 人を招待し、サッポロカイギュウの骨パズルをするなど、博物館ならではの体験が行われました。

活動センターには、ブラタモリ札幌編に出演された古生物学担当の古沢学芸員と植物学が専門の山崎学芸員がおり、

見どころは、2003 年に札幌市南区小金湯の豊平川河床から発掘された体長 7 メートルになるサッポロカイギュウの復元模型。その後の調査の結果、約 820 万年前に生息し、寒冷な気候に適応したカイギュウでは世界最古だということが明らかになりました。

開館は火～土曜の午前 10 時～午後 5 時。入館無料。問い合わせは同センター ☎011-374-5002 へ。



サッポロカイギュウの復元模型を見学する平岸高台小の 3 年生たち (2016 年 4 月 22 日北海道新聞朝刊 28 面より)

～広告募集中！！～

道新りんご新聞では広告を募集中です。平岸地域を大切にしたいお店、会社に最適です。

お問い合わせは、☎0120-128-348 北海道新聞永田販売所伴野まで。

または、道新りんご新聞ホームページ内のお問い合わせのページからご連絡ください。

◆発行部数：約 11,000 部 ◆ホームページの月間アクセス数：9,456 回 (3/26 日～4/25 日)

◆料金：月額 5,000 円 (税抜、道新りんご新聞に月 2 回掲載 + ホームページへ広告バナーを掲載)